

シリーズ 水にまつわる話(2) — 六郷町 —

田沢疏水は、田沢湖町、角館町、中仙町、太田町、千畑町、六郷町、仙南村の七ヶ町村に跨っています。順次各町村の水にまつわる話を執筆して戴き紹介します。第二回目は六郷町です。



ニテコ清水のハリザッコが語るには…

六郷町学友館長

高橋悦央

仙北平野土地改良事務所編纂の水の郷地図を俯瞰すると、奥羽山脈西麓の標高四〇〇〜六〇メートル地帯に、七つの湧水群が南北に並んでいる。この湧水地帯と川・湖沼が作った段丘には、共有の「仙東山麓文化(仮称)」の存在が見え隠れして、郷土史愛好者の関心を引く地域となっている。

—— 扇状地へ縄文の珍客 ——
この七つの湧水群の一つが、最南端に位置する六郷湧水群である。黒森山を源とする荒川と、真昼山からの善知鳥川が合流して出来た丸子川が、六郷扇状地を形成してきた。扇端部にあたる町部には、多くの清水が湧き出ている。荒川は、名前のごとく暴れ川で

縄文の頃は、山裾を、南の野際集落(仙南村)方面へと流れていた。以降、真西の町部、そして現在は千畑町へと、流路を北へ三回変えている。

昭和四七年の秋、石名館縄文遺跡の東一キロ程の小さな水路にサケが遡上してきた。現在では荒川に繋がらない水路であるが、縄文時代の習性に導かれて、追分あたりで雄物川に入る上総川を上ってきたのだろう。昔はここから六

キロ上れば荒川の溪流で、そこが産卵地だったと考えられる。さて、いただいたテーマは「六郷と水」です。扇頂部の六郷東根妻の神付近で合流した丸子川の流路は、六郷町を

避けるように千畑町へ曲流している。逃げる川水を語るよりに、ニテコ清水の千古を、そこに棲むハリザッコに語っていただくことにする。

—— ボクは六郷の先住民

ボク、ニテコ清水のトゲウオです。体長は六cmで背びれの前方に九本のトゲがあります。トゲウオ科トミヨ属の「イバラトミヨ(雄物型)」という学名があるけれど、みんなはボクを、ハリザッコと呼んでいる。ボクの先祖は二三年前の氷河期に、氷結しない所を求めてここに住みついた。年中、水温一五度前後の清水が湧いており、水草や水性昆虫と仲良く暮らせる楽園です。ボクは、ニテコ清水が大好きですが、近頃、体長を崩して静養する仲間が多く、心を痛めています。でも、ボクは毎

朝ニテコサイダーのご主人様と、あいさつを交わしながら元気に暮らしています。—— 六郷古来の清水 ——
去年の夏、子ども達がやってきて、六郷町で一番古い清水はどこか、という話になりました。「町の一番西にある古館清水かな」それとも「一

番大きい宝門清水かな」いや「神社裏の諏訪清水かな」など、活発な論戦を交わしていました。決着はつきませんでした。ボクもよくわからないけど、おじいちゃんから聞いた話をしてみました。昔、アイヌの人達が水飢饉にあり、水を求めて六郷まで南下して来ました。疲れ果てたピリカメノコが、両手を開いて地面に手をつくすと、そこから清水がこんこんと湧いてきました。それが、今、ボクが棲んでいるニテコ清水です。

子ども達はボクの話聞いて「答えは、ニテコ清水だ」と言いながらノートに書き込んでいた。ボクは得意になって、とっておきのニテコ清水の話をつけることにした。

—— ニテコはアイヌ語 ——
「ニテコ」って変な名前だとよく言われます。ボクは、ニテコはとも立派な名前だと思っっているのに、自分の家がバカにされているようで、寂しい気持ちになります。ニテコはアイヌ語から生まれた言葉です。ニタイ(森林)コツ(水溜りの低地)が訛って「ニテコ」と呼ばれるように

なりました。つまり、ボクの先祖が住んでいた頃のニテコは「森の中の水を貯えた低地」だったのです。「六郷」だってアイヌ語だそうです。ルコ・コツイ(清い水溜りのある処)が訛って「ロクゴウ」になった、とボクのおじいちゃんには言っていました。

—— 江戸後期の清水

文政一〇年(一八二七)の秋に、ボクの清水へ頭巾を被った上品なおじいさんがやって来ました。箸入れのような矢立から筆を取り出して、清水のスケッチを始めました。そばでは三人の方が何か説明していました。スケッチを終えたおじいさんは、次に文章を書き始めました。ボクがちょっと覗いてみたら、「……早魃にも減ずる事なく、水いやましぬ。六郷第一の名水なるべし。……末は落合いて田井に入る也。」と書いていました。後で聞きましたが、あの有名な紀行家菅江真澄先生だったそうです。清水の絵と文は「月の出羽路」に書き残されているそうです。

—— 網駕籠の中の男

明治元年、ボクが棲む清水

の西方で戦いがありました。その翌年、ニテコ清水の前に網駕籠が止まりました。髭もじゃで両手を縛られた罪人らしい男が乗っていました。監視の兵が清水を汲み、不愛想に柄杓を差し出しました。ゴクッと飲みこんだ男の顔が、ボクの目に焼き付いてしまいました。それから何年か過ぎました。それから何年か過ぎました。部下を連れた偉そうな方が立ち寄りしました。柄杓で清水を飲んだ顔を見て、すぐ分かりました。あの時の網駕籠の中の男でした。後でお

じいちゃんが教えてくれました。函館の五綾郭で官軍に破れ、東京に護送された釜次郎でした。後に世運一転して通信大臣になられた釜次郎は、榎本武揚と名前を改め、ニテコを再び訪ねたのでした。

——ニテコ清水は御膳水

明治十四年九月二十日のことです。その日は快晴で、朝から町もニテコも多くの人出で賑わいました。それもその境内の御小休所に御憩いなされたのです。仰々しい服装の

方々が、恭しくニテコの清水を汲んで行きました。天皇様へ供されたそうです。その他に、岡田さんの葡萄園のサイベラと六郷名物のシンコ餅が供され、鷹狩りと稲刈り風景もご覧いただいたそうです。

この日からニテコの清水は、御膳水と呼ばれ有名になりました。今もその記念柱が建っています。ボクは、毎日この御膳水と共に生活できることを誇りに思っています。

——ボクの仲間が危ない

雪解け水が地下に浸み清水

が勢いを増し始めた三月、ハリザッコの総会が開かれました。八〇の清水に案内したそうです。出席はニテコ清水のボクを含めて四つの清水からだけでした。ハリザッコは「絶滅危ぐ種ⅠA」に分類されたことが話題になりました。ボクにはとんと分からぬことでしたが、紙漉座清水の長老さんが言うには、ボくら種族は「近い将来絶滅の危険性が極めて高い」ということだそうです。つまりハリザッコが六郷の清水から、みんな引っ

越してしまおう、ということだそうです。

ボクの心配を察した長老さんは、『大丈夫だよ、ホラ、清水を掃除に来る子ども達がいるでしょう。あの子ども達がキミらの仲間を増やすことに成功して、藤清水と御台所清水に放流しました。八月には、全国から偉い先生方が集まって、地下水学会も開かれます。六郷は、ハリザッコが棲む最適環境郷になりますよ。』と話してくれました。